



**中長期の経済財政に関する試算
(2025年8月)
のポイント**



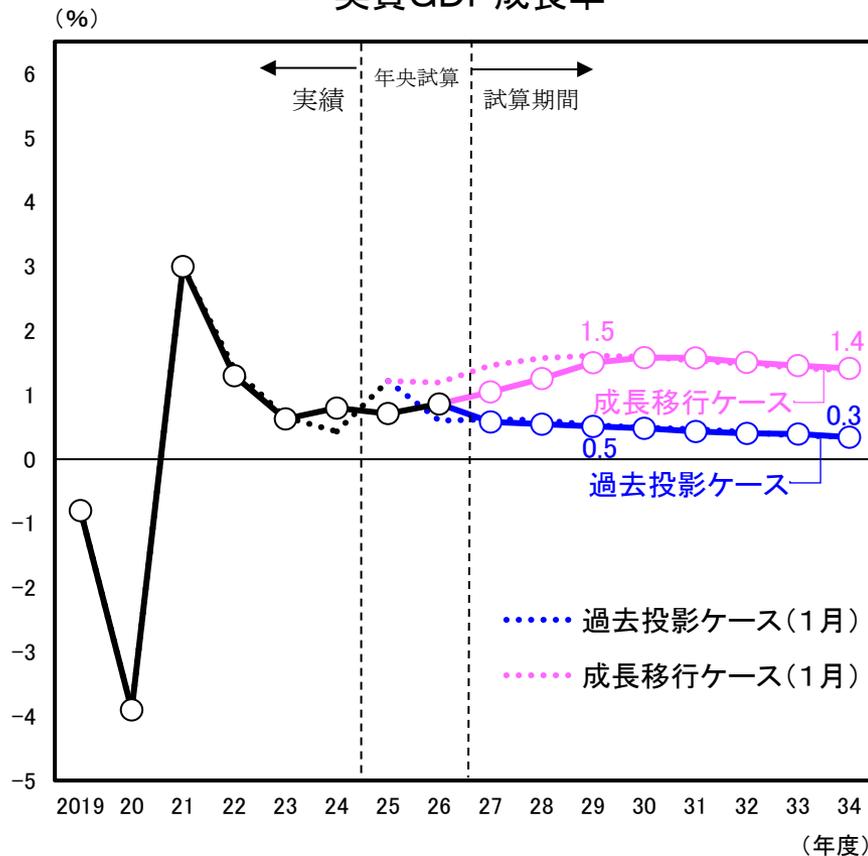
**2025年8月7日
内閣府**

経済の中長期的な展望

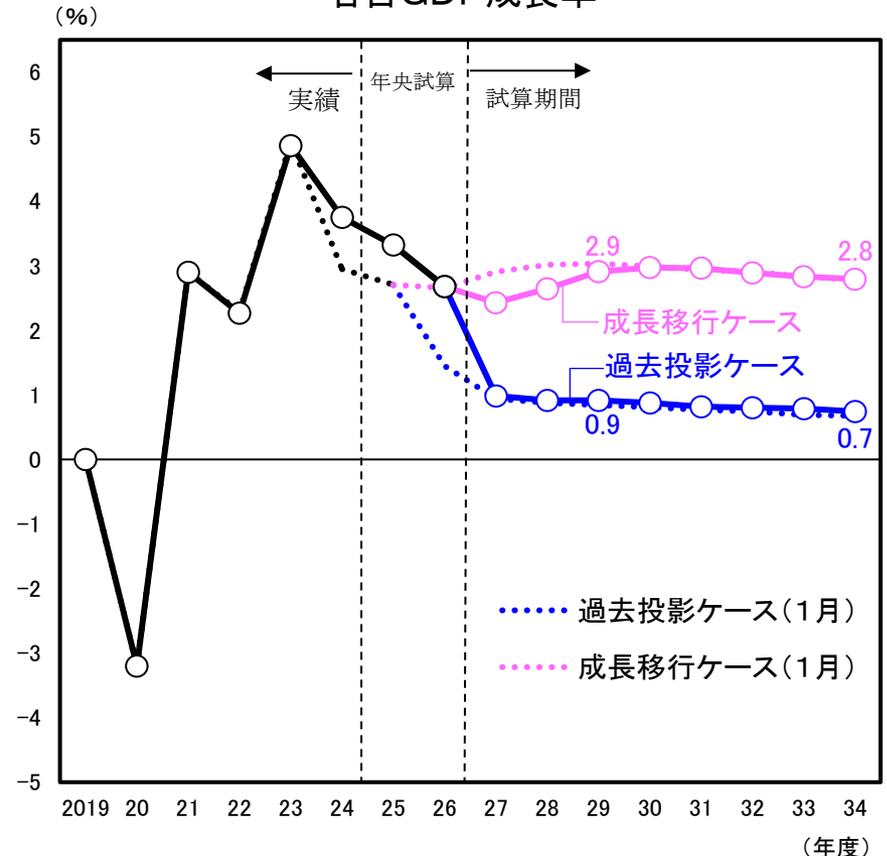
【成長移行ケース】 賃上げと投資が牽引する成長型経済に移行し、実質成長率が2020年代後半に1%台半ば、2030年度以降も1%を安定的に上回る成長（名目成長率は中長期的に2%台後半）。全要素生産性（TFP）上昇率が過去40年平均の1.1%程度まで高まるシナリオ。

【過去投影ケース】 ゼロ近傍の成長を過去数値より投影し、中長期的に実質0%台半ば、名目0%台後半の成長。TFP上昇率が直近の景気循環の平均並み（0.5%程度）で将来にわたって推移するシナリオ。

実質GDP成長率



名目GDP成長率



財政の中長期的な展望

【国・地方のPB対GDP比】

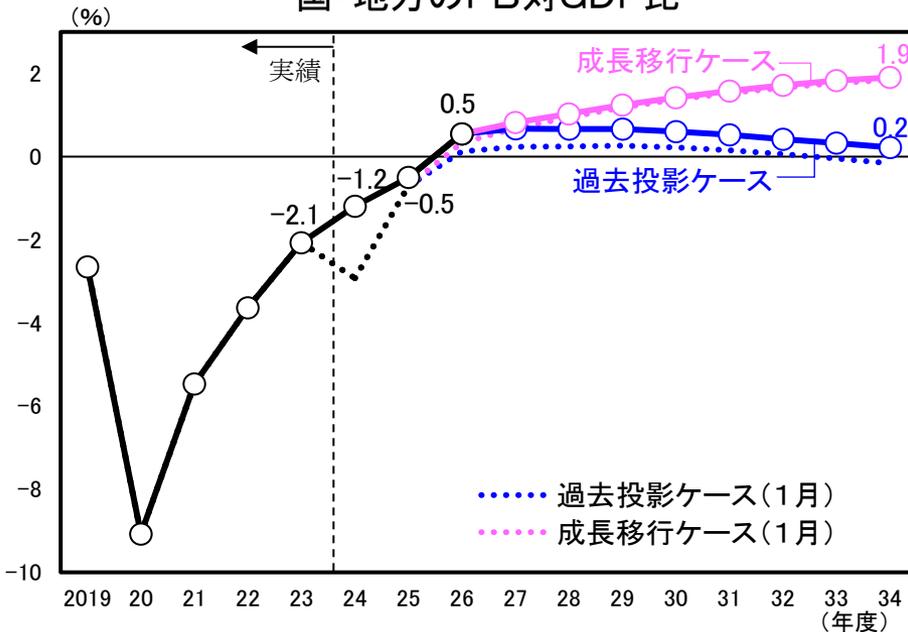
- 2024年度決算概要における不用、繰越、税収等を反映。
- 2025～26年度にかけてPBは着実に改善。堅調に名目成長率が推移することが見込まれる中、歳出改革努力が継続されることにより、2026年度は黒字となる姿となっている。
- その後、成長移行ケースでは黒字幅が拡大する一方、過去投影ケースでは次第に縮小していく姿となっている。

- (※) 1. 「防衛力整備計画」及び「こども未来戦略」、「第1次国土強靱化実施中期計画」は、試算に反映している。いわゆる教育無償化(高校無償化、給食無償化等)に伴う歳出増については、安定財源が確保されることを想定し、PBに影響を与えないと仮定している。
2. その他の政府決定がなされていない施策の歳出は織り込んでいない。
3. 2026年度のPB対GDP比には、歳出効率化努力について半分程度(0.7兆円程度)を織り込んでいる(これまでの歳出効率化努力の効果とそれによる経済への影響を加味した場合のPB改善効果(1.3兆円程度)については、経済財政諮問会議(2024年4月2日)経済・財政一体改革推進委員会提出資料参照)。

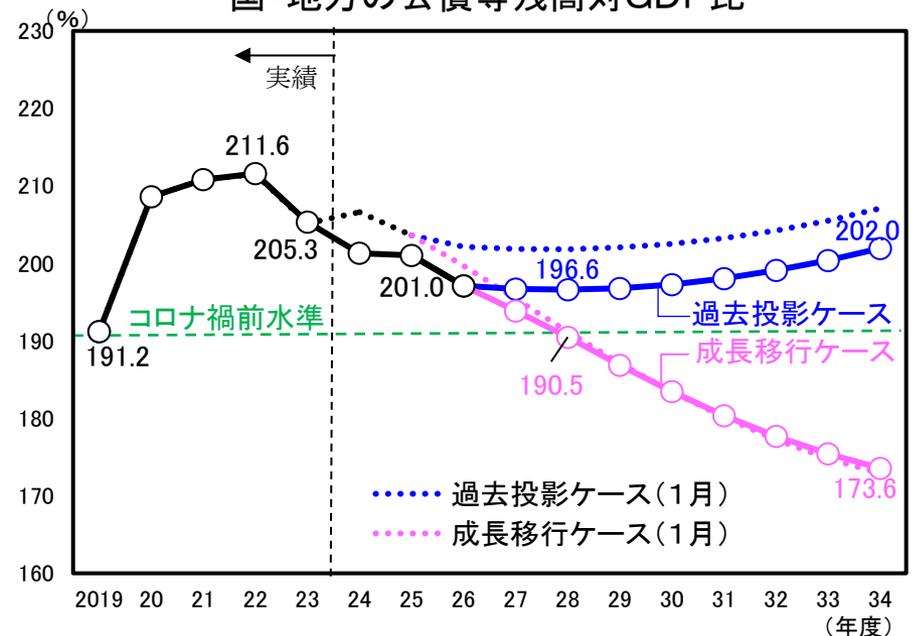
【国・地方の公債等残高対GDP比】

- 成長移行ケースではPBが黒字化する中で徐々に低下し、2028年度にはコロナ禍前の水準を下回る。一方、過去投影ケースでは2020年代後半に上昇に転じる。

国・地方のPB対GDP比



国・地方の公債等残高対GDP比



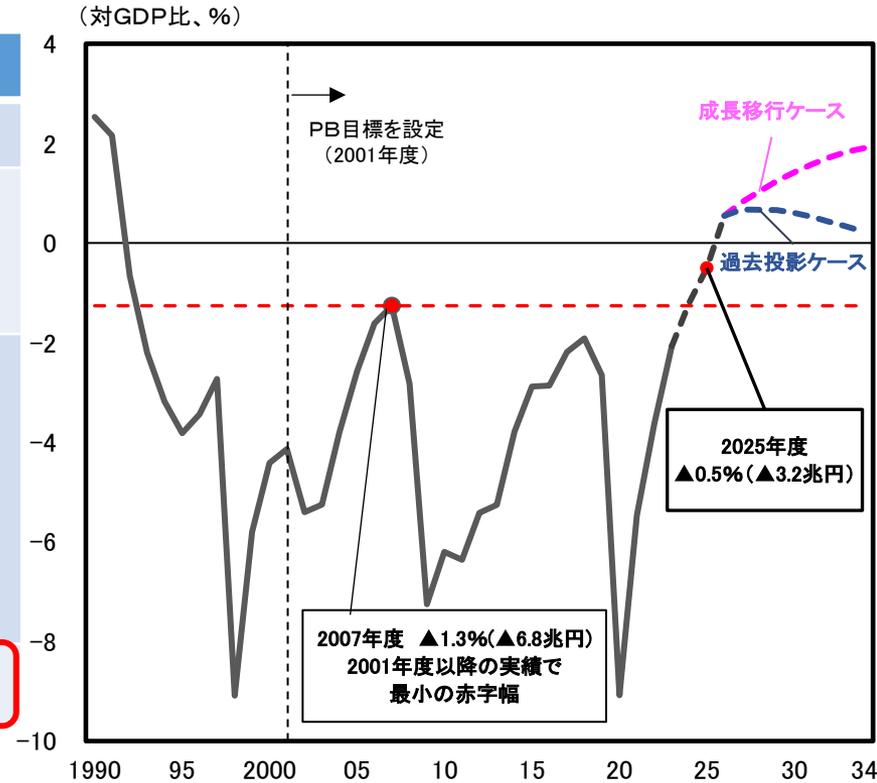
国・地方のPBの動向

- 2025年1月試算における国・地方のPBは、2025年度は4.5兆円の赤字、2026年度は2.2兆円の黒字（成長移行ケース）との見込みであった。
- 2025年度のPBは、2025年1月試算と比べると、基調的な税收増等により改善し、3.2兆円の赤字の見込み。2025年度のPBの水準は、PB目標を掲げた2001年度以降で最も赤字幅が縮小する見通し。
- 2026年度のPBも、2025年1月試算と比べると、基調的な税收増等により改善し、黒字額は3.6兆円に拡大することが見込まれる。

< 図1：2025年度・2026年度における国・地方のPBの変化要因 >

収支への影響（要因）	（兆円程度）	
	2025年度	2026年度
2025年1月試算（成長移行ケース）	▲4.5	+2.2
（歳入面の要因）		
・ 基調的な税收増の想定	+1.6	+1.6
（歳出面の要因）		
・ 2024年度決算における繰越等の影響	▲0.4	
・ 国土強靱化の取組推進による歳出増		▲1.0
・ 2026年度物価上昇率低下による歳出減		+0.1
・ 2026年度予算における歳出効率化の想定		+0.7
2025年8月試算	▲3.2	+3.6

< 図2：国・地方のPBの長期推移 >



- （備考）1. 内閣府「国民経済計算」、「中長期の経済財政に関する試算」（2025年8月）により作成（復旧・復興対策、GX対策及びAI・半導体支援の経費及び財源の金額を除いたベース）。（年度）
2. 図1に示したPBは、現時点で入手可能なデータをもとに試算したものであり、今後、2025年度決算等における税收の変化や不用・繰越の発生等を反映することにより変動することが見込まれる。このため、中長期試算における想定も含め、相当な幅をもって理解される必要がある。また、表章単位以下の位で四捨五入しているため、要因の合計とPB改善幅は必ずしも一致しない。
3. 図2は、1990～1993年度のPBは旧基準（93SNAベース）。2024年度以降は試算値。

(参考)高成長実現ケース

- 成長移行ケースよりも更に高い成長となる高成長実現ケース(TFP上昇率がデフレ状況に入る前の期間の平均1.4%程度まで高まるシナリオ)では、PB対GDP比や公債等残高対GDP比が、成長移行ケースに比べて、更に改善する姿となる。

